

自らの命を守る防災教育
～危険を予測し、主体的に行動する態度の育成をとおして～

野田市立山崎小学校長 高橋 宏

1 学校の規模及び地域環境

本校は、全校児童388名、各学年2学級で特別支援学級2学級を含めて14学級の中規模校である。

千葉県北西部に位置し、国道16号線に隣接している。保護者の中には、東武野田線、常磐線、つくばエクスプレス等を利用して都内に勤務している方も少なくない。東日本大震災の際には、東武野田線等は運転を見合わせ、道路が渋滞して交通機関が乱れ、保護者の中でも都内から徒歩での帰宅を余儀なくされた方もいた。

2 取組のポイント

本研究をするにあたり、次のように目指す児童像を設定した。

低学年	自分のことは自分でできる子
中学年	話をよく聴き、正しい判断ができる子
高学年	状況を正しく判断し、積極的に人とかかわりながら行動できる子

このような児童を育成すべく、以下の2つのことを中心に据えて指導した。

(1) 防災管理・組織活動

①引き渡し訓練

* 災害発生後の児童の引き渡し・帰宅困難児童を視野に入れた学校の対応及び市、地域と連携した行動や役割の検討。

* 4月当初と9月に実施。特に9月には、より有事に近付けるよう保護者に日を告げずに実施。

②避難訓練とワンポイント避難訓練

* 緊急地震速報等に基づく避難の仕方。
* 様々な時・場の想定のもとに実施。

③学校と地域住民の合同防災訓練

* 防災について児童と地域の方・保護者が共に学ぶ体験（大人が子どもから学ぶことも）の実施。

* 地域の方向けの防災講演会の実施。

(2) 防災授業及び防災教育の取組を教職員・保護者に公開。

* D I G (Disaster Imagination Game) による防災授業研究と防災の視点を取り入れた年間計画の作成。

* 緊急地震速報に基づく避難の仕方。

* 教職員向けの防災講演会の実施。

3 取組の概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○第1回引き渡し訓練 ○担当者連絡会議①	職員、児童、保護者 校内防災委員 事業担当者
5月	○理論研修①, ②	本校職員、講師
6月	○理論研修③	本校職員、講師
7月	○理論研修④, ⑤	本校職員、講師
9月	○防災教室 講師: 貴田康乃先生(阪神大震災の体験者) ○理論研修⑥	本校職員、児童、保護者 本校職員、講師

	○第2回引き渡し訓練 ○担当者連絡会議② ○担当者連絡会議③	職員、児童、保護者 校内防災委員 事業担当者 同上
10月	○理論研修⑦	本校職員、講師
11月	○合同防災訓練 防災講演会 講師：佐々木貴子先生 ○校内授業研究会 2学級（1年，6年） 学級活動・総合的な学習の時間 授業展開	教職員、講師 地域の方、児童、 保護者、職員、講師
12月	○理論研修⑧	本校職員、講師
1月	○公開授業研究会 防災講演会 講師：佐々木貴子先生	教職員、講師、 保護者
2月	○事業のまとめ	本校職員、講師
年間	○ワンポイント避難訓練 ○避難訓練	

4 校内防災委員会及び事業担当者

(1) 校内防災委員会

	氏名	所属及び役職
1	高橋 宏	本校 校長
2	山崎 保	本校 教頭
3	瀬戸 芳男	本校 教務主任
4	藪崎 葉子	本校 研究主任
5	福田 吉寿	本校 安全主任

(2) 事業担当者

	氏名	所属及び役職
1	佐々木 貴子	北海道教育大学 教授
2	眉山 俊敬	千葉県教育庁東葛 飾教育事務所 指導室指導主事

3	村田 弘信	野田市教育委員会 指導課指導主事
4	松本 和博	野田市市民生活課
5	石川 光夫	自治会関係者
6	野口 茂	自治会関係者
7	相澤 康範	避難所長

※佐々木貴子先生には年間を通して講師を依頼。

5 具体的な取組

(1) 防災管理・組織活動

① 引き渡し訓練

ア 第1回引き渡し訓練

(ア) 日時

平成24年4月13日（金）

午後2時30分～

(イ) ねらい

- ・大災害発生時、緊急に保護者への引き渡しを余儀なくされる場合の引き渡しの仕方、引き渡しカードの活用を確認する。
- ・災害発生→避難→点呼→保護者への引き渡しが安全に短時間でできるよう、職員間で共通理解を図り、準備する。
- ・安全に避難しようとする実践的態度を養う。
- ・下校の際、児童と一緒に通学路の安全確認を行う。交通安全、防犯、地震（倒れてこない、落ちてこない）の観点から危険箇所をチェックする。

※新入生や転入職員も含め、いつ起きるかわからない地震への対応のため、4月初に実施。

(ウ) 想定

- ・東海地震警戒宣言が発令されたため、保護者への引き渡しをする。
- ・緊急メール・ブログにより、児童を引き渡すことを連絡する。

(エ) 引き渡し方法

- ・午後2時30分に学校より緊急メール・ブログで各家庭に災害発生による児童引き取り依頼の連絡をする。



- ・連絡を受け、学校に児童を迎えに来てもらう。その際、自動車は使用せず、徒歩か自転車に来るようお願いしておく。



- ・学校に到着後は、職員の指示に従って保護者待機場所に学級別に待機する。児童が複数在学している場合は、上の学年の児童を下学年のところに移動させるので、一番下の学年の場所で引き取ってもらうよう呼びかける。引き渡しは、学級ごとに来校した順とする。



- ・全校児童の安全を確認の上、学校（校長）の指示に従い、学級担任（複数在学している場合は一番下の学年の担任）と引き渡しカードで確認して下校することを確認する。



- ・引き渡しの際、児童が「私の父です。」「私の母です。」と担任に声をかける。引き取りに来た方に、児童との関係を言っただき、確認をとる。引き渡しは、引き渡しカードに記載された方にのみ行う。



- ・引き渡し訓練に参加できない児童は、午後3時50分に職員引率で集団下校とする。

○下校の途中、通学路での安全・防犯面等で気づいたことがあったら、後日、学校に知らせてもらう。（アンケート実施）

○急に引き渡しに来られなくなったり、迎えが遅れたりする場合は、必ず学校に連絡を入れてもらう。

○雨天の場合は、体育館で引き渡しを行う。

(オ) 児童への事前指導

- ・避難時の態度の確認（真剣な態度）
- ・引き取りに来た保護者等の児童との関係をはっきり言えるように指導しておく。

(カ) 保護者への連絡

- ・保護者への通知は文書等で行う。
2～6年生：4月 6日 前期始業式
1年生：4月10日 入学式
- ・当日の引き渡し開始の連絡は、緊急メール・ブログを午後2時30分に流す。
- ・保護者が災害時に迎えに来られない場合が想定されるので、引き渡しカードには、信頼して任せられる親戚や近所の知り合い等、確実に迎えに来られる方がいれば、記入してもらう。

(キ) 当日の流れ

2：30	保護者への連絡
3：00	帰りの会終了
3：02	地震警戒宣言が発令（放送）
3：05	二次避難 開始
3：10	校庭の避難場所へ整列・点呼
3：13	二次避難 終了
3：20	引き渡しについて説明
3：30	引き渡し訓練 開始
3：50	引き取りに来られない児童の下校
4：30	引き渡し訓練 終了

(ク) 引き渡しカード

平成24年度 緊急災害時引き渡しカード						
(学校保管用)		野田市立山崎小学校				
年 組 児童氏名						
住所				コース名		
保護者氏名						
電話番号		緊急連絡先 ① (携帯等) ②				
兄弟姉妹関係	氏名		山崎小及び南館中、学年・組			
			年 組			
			年 組			
◎自宅から学校までの距離						
約		km	徒歩	分		
緊急引き取り者						
迎え順	受け取り人氏名	本人との関係	携帯電話等	勤務場所等 (市町まで)	引き渡しサイン	
1					／	／
2						
3						
4						
5						
緊急避難場所						
第1						
第2						
きりとり						
(家庭保管用)		児童氏名				
緊急災害時引き渡しカード						
迎え順	受け取り人氏名	本人との関係	携帯電話等	勤務場所等 (市町まで記入)		
1						
2						
3						
4						
5						
緊急避難場所						
第1						
第2						

※引き渡しカードの見直しを行い、緊急引き取り者を複数書けるようにした。カードに名前のない方への引き渡しは、万が一の事故を考え行わない。



(引き渡しの様子)

イ 第2回引き渡し訓練

第2回目は、事前に日を通知しないで実施。防災組織体制をとり、最終児童を引き渡すまで行う。

(ア) 日時

平成24年9月11日(火)

午後2時35分～最終児童引き渡しまで

(イ) ねらい

- ・大災害発生時等、緊急に保護者への児童引き渡しを余議なくされる場合の引き渡しの仕方を確認する。
- ・災害発生→避難→点呼→保護者への引き渡しが安全・確実にできるよう、職員間で共通理解を図り、準備する。
- ・**学校内災害対策本部を設置し、防災組織体制の各担当が本部及び他の係との連携をとり対応する。**
- ・安全に避難しようとする実践的態度を養う。
- ・引き渡しが遅くなる児童への対応。

(ウ) 想定

- ・**震度5強の地震**発生のため、保護者への児童引き渡しをする。
- ・**緊急メール・ブログ・緊急連絡**により、児童を引き渡すことを連絡する。

(エ) 引き渡し方法

- ・第1回目と同じだが、1回目の反省を基により安全で確実に引き渡す工夫をした。

(オ) 児童への事前指導

- ・引き渡し訓練の内容について
- ・いつ大きな地震が起こってもおかしくない状況であること
- ・いざに備えて、真剣に訓練に参加すること
- ・引き渡しは最後の一人まで行うので、集団下校はしないこと
- ・兄弟姉妹の上の子は、下の子を励ましながら待つこと

(カ) 保護者への連絡

- ・6月の保護者全体会及び6、7、9月に防災だより等で、9月中旬に引き渡し訓練を実施する旨を繰り返し知らせる。
- ・当日の引き渡しの開始の連絡は、震度の確認、通学路の安全確認、校舎や周囲の家や交通網の状況等の把握、及び第二次避難後に児童全員の無事が確認できた時点で開始する。緊急メール・ブログ・緊急連絡先へ電話（メールを使えない方）。
- ・開封メールの取りまとめをし、情報が伝わったかを確認する。

(キ) 当日の流れ

2 : 3 5	緊急地震速報による放送 第一次避難
2 : 3 8	第二次避難
2 : 4 3	校庭に災害対策本部を設置 情報収集・安否確認
2 : 4 5	校庭の避難場所へ整列・点呼
2 : 4 8	異常あり→校内残留児童検 索・初期消火
2 : 5 5	全員の無事を確認 引き渡しの緊急メール、ブロ グ送信 緊急連絡先への電話開始
2 : 5 7	引き渡しについて説明
3 : 0 0	引き渡し訓練 開始
3 : 3 8	体育館への避難を指示
3 : 4 8	待機児童に水を配布
3 : 5 7	体育館に災害対策本部を移動
4 : 4 1	待機児童65名を確認 新聞紙のスリッパ作り 読み聞かせなど
5 : 0 6	ビスケットを配布

6 : 4 6	全児童引き渡し完了 引き渡し訓練 終了
---------	------------------------



(災害対策本部を体育館に移動し、待機する児童たち)

(ク) 防災組織体制

名称	担当	主な対応
対策本部	校長・教頭・ 教務	各班を統括 し、指導・指 示・命令をす る
連絡通報班	事務職員等	連絡・報告・ 通報・支援要 請
避難誘導班	授業者	第一次・第二 次避難をす る
保護班	女性職員	避難児童の掌 握
搜索救助班 (制止班)	男性職員 (複数で)	校内残留児童 の検索・救助
消火班 (制止班)	火元直近職員 (複数で)	火災発生時の 初期消火
救護班	養護教諭等	負傷者の応急 処置
応急復旧班 (制止班)	担外職員	被害状況の把 握、危険箇所 の処理
搬出班	担外職員	非常持ち出し 品の搬出・管 理

帰宅困難児童 対応班	担任（引き渡 し後）	児童滞り場所 設営、備蓄品 配布準備
避難所支援班	担外職員	避難所開設支 援

※消火班、応急復旧班、検索救助班は、不審者対応時は、制止班となる。



（トランシーバーを使って本部から指示を出す）

（各班活動時間帯）

		対策本部	連絡通報班	避難誘導班	児童保護班	検索救助班	消火班	救護班	応急復旧班	搬出班	帰宅困難児童 対応班	避難所支援班
第1次避難												
第2次避難												
引き渡し （第1段階）	引き渡し 準備											
引き渡し （第2段階）	引き渡し											
引き渡し （第3段階）	待機児童											
避難所準備												

※引き渡しは学級担任が行う。

②避難訓練・ワンポイント避難訓練

避難訓練・・・第二次避難まで行う。
ワンポイント避難訓練・・・第一次避難のみか、
経路確認まで行う。学級ごとに振り返りをする。

ア 避難訓練

（ア）ねらい

- 適切な第一次避難の仕方を身につける。

- 標準的避難経路と避難場所を知る。
- 安全に避難しようとする実践的態度を養う。

（イ）内容

- 第一次避難、第二次避難を行う。
- 避難に関する約束（お・か・し・も）を守る。



※第一次避難では、頭や首を確実に守る。

（ウ）訓練等

4月	緊急地震速報対応訓練	授業中
6月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
9月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
10月	緊急地震速報対応訓練	清掃中
12月	緊急地震速報対応訓練	昼休み

イ ワンポイント避難訓練

（ア）ねらい

- 様々な場面を想定して訓練し、時と場に応じて自分の身を守る方法（第一次避難と経路の確認）を身につける。（自助）
- 危険を感じ取り、周囲が安全に身を守れるよう行動する力を高める。（共助）

（イ）内容

a 全校一斉のワンポイント避難訓練

(a)計画的に行うもの

- 第一次避難まで、もしくは、経路確認までを実施する。

・ふり返しカードを活用し、今後の活動の向上につなげる。

・予告ありから予告なしへ。

(b)実際の緊急地震速報や地震発生の際に行うもの

b 学級ごとのワンポイント避難訓練

- ・教室からの移動の際の場に応じた避難や、特別教室等で短い時間を使って実施する。
- ・事前にワンポイント避難訓練の合図をクラス等で決めておき、すばやく反応できるようにしておく。
- ・一次避難の確認、並び方、避難経路の確認をする。

(ウ) 訓練等

5月	素早く名簿順に並び移動	全校集会
7月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
7月	地震発災対応 (体育館)	全校集会
7月	学団ごとの避難方法	プール
10月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
10月	緊急地震速報対応訓練	参観日
11月	地震発災対応	給食中
1月	緊急地震速報対応訓練	清掃中
2月	地震発災対応	体育館
2月	緊急地震速報対応訓練	清掃中
3月	避難訓練のまとめ	



自分で○・×を判断できるよ
うにする。

※様々な場面を想定しての避難訓練



(全校集会・体育館)



(給食中)



(昼休み)



(プール)

③学校・地域合同防災訓練

ア 日時

平成24年11月4日(日)

8時20分～14時20分

イ ねらい

- ・地域と共に防災意識を高める。
- ・地域住民と児童との交流を深める。
- ・自助、共助、公助について考える。

ウ 参加人数

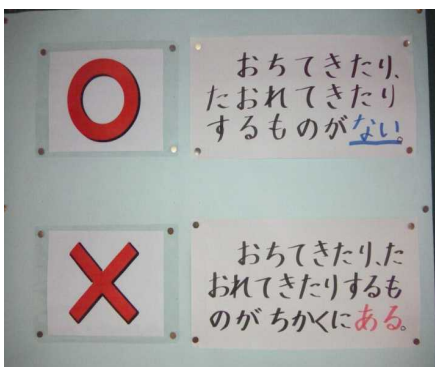
約900名

・児童 約380名、本校職員約30名

・関係者 約80名

・教育関係者 約20名

・地域住民、保護者 約400名



落ちてこない
倒れてこない
移動してこ
ない

判断するた
めの掲示物

エ 内容

見学（体験）	体験
炊き出し、試食	煙体験
三角巾	手当て体験
避難所、備蓄品説明	消火器体験
工作車	避難所体験
給水車体験	車いす体験
タンカづくり体験	AED講習体験

※当日の給食は、防災給食（ハイゼックスで炊いたご飯ととん汁等）

オ 地域の方からの感想

- ・小学生と地域住民と一緒に訓練することは、大人だけの防災訓練よりも充実していた。
- ・子ども達と同一体験をすることはコミュニケーションとして大変良い。
- ・学校・自治体・自治会が一体となった良い訓練だった。
- ・“いざ”は普段なりの大切さが分かった。



（地域の方に新聞紙でのスリッパ作りを教える4年生）

（2）防災教育

① 研修の具体的方針

各学年団の目指す児童像に近づくため、以下の点に重点を置いて研修をすすめた。

ア 防災への意識づけ

「いざは普段なり」の意識を持って行動できるよう、人の話をしっかり聴くこと、廊下を正しく歩くことなど基本的な生活態度の指導徹底を図る。

イ 防災をイメージした学習活動（D I G）の実践

自らの命を守るという「主体的に行動する態度」の育成に必要な内発的動機づけをはかるため、D I Gを取り入れた授業実践を行う。

まずは各クラスで給食中に地震が起きたと想定したD I Gを行った。

ウ 情報の共有化

各学年で学習した防災に関する情報を他クラスへ発信し、共有化



を図る。発信方法としては防災掲示板での情報の掲示、異学年間交流など学年に合った方法をとる。

エ 防災の視点を取り入れた年間計画の作成

昨年度の年間指導計画を見直し、教科・領域の内容を防災の視点から見直しして検討し、作成した。

オ よりよいコミュニティの育成

縦割り活動や体験活動の実践により、学年間の縦のつながりを強化する。

また、地域の方とのふれ合い活動やあいさつ運動を実践して、地域との交流を深める。

② 授業実践

ア 1年学級活動「食べ物のはたらき」

(1) 目標

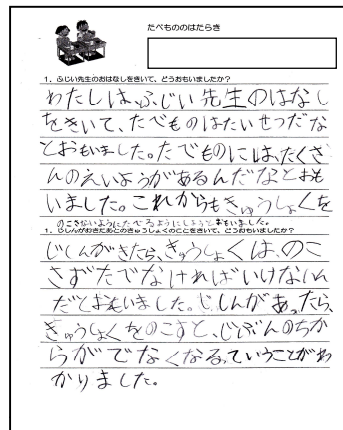
- ・自分の命を守るために、食べることが大切であることに気付く。＜自助＞（関心・意欲・態度）
- ・なぜ好き嫌いせずに食べることが必要かを考えて話し合うことができる。（思考・判断・実践）

- ・食べ物には3つのグループがあり、バランスよく食べることが健康な体をつくるということを理解する。(知識・理解)

(2) 展開

過程 時配	学習活動と内容	予想される児童の反応	指導上の留意点や支援 (※評価 ◎防災教材)	備考(資料)
見出す (5)	○学校の残菜についての資料を見せ、なぜ残っているのか意見を言う。	・残す人がいる。 ・給食が多い。 ・時間が足りない。 ・少ない盛りがあるから。 ・嫌いな物があるから。		残菜の写真
調べる (25)	○どうして好き嫌いせずに食べなければいけないかを考える。 ○栄養士のお話を聞き、給食の献立表の3つの食品群のことを知る。 赤：体をつくる 黄：力が出る 緑：病気を予防する	・残すと作った人に悪いから。 ・もったいないから。 ・大きくなるために残してはいけないから。 ・怒られるから。	※どうして好き嫌いせずに食べなければいけないか、自分の考えを持って話し合うことができたか。(思考・判断・実践) <観察> ※食べ物には3つのグループがあり、それぞれバランスよく食べることが大切であることを理解していたか。(知識・理解) <観察・振り返りカード>	前日の給食の献立食品カード
深める (10)	○震災時の給食の写真を見て、思ったことを発表する。 パン ジャム ゼリー	・少ない。 ・お腹が空しそう。 ・赤黄緑色の食べ物を食べるように習ったけど、これは足りない。 ・野菜がないよ。 ・栄養が足りない。 ・こんなに少なかつたんだ。	◎震災時は、自分の命を守るために好き嫌いせずに食べなければいけないことに気付いたか。(関心・意欲・態度) <観察・振り返りカード>	震災時の給食の写真
まとめ あげる (5)	○感想をカードに書く。	・お腹が空しそう。 ・食べないとお腹が空いてしまう。		振り返りカード

食育に防災の視点を組み込んだ授業である。教科・領域には指導要領に定められた目標がある。それを逸脱することはできないので、防災の視点をどの程度まで入れるかの提案授業となった。



イ 6年総合的な学習の時間

「避難所ボランティアになろう」

(1) 目標

- ・大災害の際に自分の命は自分で守るという意識を持つ。

<自助> (関心・意欲・態度)

- ・自分の命を守ることができたら、下級生を助け、地域の方と協力して行動ができる。 <共助> (思考・判断・表現)

(2) 指導計画

	時配	学習内容	評価の観点		防災教材の活用
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	
見出す	1	地震のメカニズムあわせて行動するには	○	○	学校・地域合同防災訓練
	2	AED講習体験 命を守る方法	○	○	学校・地域合同防災訓練
	3	避難所見学	○	○	学校・地域合同防災訓練
調べる	4	避難所の役目ってなんだろう 避難所には何を持っていくべきか	○	○	
	5・6	避難所について調べよう (6年生として手伝えることを考えよう)	○	○	
深める	7~10	避難所体験	○	○	
	11 (本時)	避難所ボランティアとしてやるべきことを考えよう	○	○	
まとめあげる	12	新聞に書いて知らせよう	○	○	

指導計画の7~

10時間目の「避難所体験」は実際に体育館でダンボール等を使って避難所を作り、午前中そ



で過ごした。8時間目には、4年生が総合的な学習で学んだ車椅子の扱い方を6年生に伝えた。10時間目には1年生と一緒に避難所体験を行った。避難所でできる遊びや飲料水の作り方、簡易トイレの使い方など1年生に教えた。



(3) 展開

過程 時配	学習活動と内容	予想される児童の反応	指導上の留意点や支援 (※評価)	備考 (資料)
見出す (5)	○避難所体験のビデオを見て活動の様子を思い出す。 ○本時の学習課題を確認する。			ビデオ
	避難所ボランティアとしてやるべきことを考えよう			
調べる (12)	○体験活動の時、避難所ボランティアとして自分が行ったことを発表する。 ○避難所体験を通して、困ったことを発表する。	・水や非常食を運んだ。 ・避難の場所がどれくらい の広さか測った。 ・何人くらい避難してくる のかわからないので、水や 非常食、場所は足りるの か。 ・毛布がない。 ・トイレが少ないと思う。	・活動内容を思い出す ために写真を掲示す る。 ・体験時のメモを見な がら発表するよう支援 する。 *自分の命は自分で守 ると意識して、実際の 時を想定し困ったこと を考えたか。 (関心・意欲・態度) <観察>	写真
深める (20)	○困ったことを解決するた めにこれから自分たちにで きることは何だろう。 <DIG> ・グループごとに意見を出 し、まとめる。 ・グループの代表がまとま った意見を発表する。	・地域の人に、避難する時 に持ってきてもらいたい もの等伝える。 ・市役所の人に用意してほ しいものやお願いしたい 事を話す。 ・下級生のお世話を普段か らする。 ・地域の人と交流する。	・実際にできるかは後 で考えることにして、 思いついた意見をたく さん出すように指示す る。	付箋 台紙
まとめ あげる (8)	○避難所ボランティアにな るためにやるべきことを確 認する。 ・個人でワークシートに記 入する。 ・全体で発表し意見をまと める。	・地域の人や下級生に避難 所について知らせる新聞 を作る。 ・地域の人に挨拶をする。 ・地域の行事に参加する。 ・フレンド活動や休み時間 に下級生と遊ぶ。	・新聞については、子 どもから出なかったら 教師の方から案を出 す。 *地域の人や下級生の 事を考えた意見がもて たか。(思考・判断・表 現)<ワークシート>	ワーク シート

この授業計画では、地域の方々との合同防災訓練で、1・4年生とは避難所体験で交流を図っている。4年生は車椅子体験を学習しているのでその知識を6年生と共有した。1年生は6年生から避難所の過ごし方を教えてもらって共有化を図った。学習で得た知識を自分達だけで留めるのではなく、他学年へ、ひいては地域とも共有化を図ることができる授業となった。

6 成果と課題

(1) 防災管理・組織活動

- ・保護者へ日を予告せずに引き渡し訓練を行うことで、緊急メール・ブログでの正確な情報の伝達の仕方を確認することができた。
- ・児童の安否確認や保護者への引き渡し、帰宅困難児童への対応など、職員が連

携して組織行動する訓練を行ったことで、より現実に近い対応を検討することができた。

- ・緊急地震速報に対応した避難訓練を行うことで日頃から放送を意識し、いざという時に備えようという意識が高まった。
- ・時間帯や場所など様々な状況を想定して避難訓練を行うことで、児童はその場に応じた判断で自分の命を守ろうとする力が身についた。
- ・訓練を重ねる中で、上級生が下級生を誘導して2次避難を行うなど、周りの人の命をも守ろうという心が育まれた。
- ・地域との合同防災訓練を実施することで、防災に関する地域とのコミュニティ作りのきっかけとなった。普段から挨拶し合う、関わり合いを深める機会を設定することが今後の課題である。

(2) 防災教育

- ・教科・領域で防災の視点を取り入れた授業をすることにより、児童だけでなく職員自身も防災への意識が高まった。
- ・防災の視点をもって教科・領域の年間指導計画の見直しをすることにより、様々な活動において防災の視点が関わっていることがわかった。
- ・教科に防災の視点を取り入れて授業を行った場合、防災の割合が多くなってしまうと教科の目標とかけ離れたものになってしまう。教科の目標を逸脱することなく防災教育をどのように行えばよいかは課題である。